



「新西海橋」開通の日に、渡り初めに訪れた市民や観光客の皆さん

広報

No.665

させぼ



広報させぼ 編集長
「キューちゃん」

特集 **新しい佐世保市の出発です!**

2 ~ 8 p

今月の主な内容

平成18年度施政方針、当初予算など	9 ~ 13 p
イベント、施設だより	14 ~ 15 p
市民の広場	16 ~ 17 p
歴史散歩、カレンダー、テレホンガイド	26 ~ 27 p
九じろうの取材日記	28 p

4月

2006 April

PUBLIC RELATIONS SASEBO



来年で発足30周年
相浦読書会は、昭和52年に相浦文化センター内にあった市立図書館相浦分館（現相浦公民館図書室）で発足しました。平成6年の新市立図書館開館に伴い同館の会議室に活動の場を移し、来年で発足30周年を迎えます。8人の会員のうち3人が当初からのメンバーです。会の趣旨は作品の内容把握と同時に、読書を通して会員相互の親

九じろうの取材日記

相浦読書会



和気あいあいの雰囲気の中、読後の感想を述べ合う会員の皆さん

交を深めることです。毎月第一日曜日の午前中に開かれていて、その月の担当者が事前に調べてきた課題本の作者経歴やあらすじなどを基に、互いに感想などを述べ合います。

三百二十八冊を読破

これまで取り上げた本は、現代女流作家や芥川賞作家の作品、エッセイなど三百二十八冊のほ

3月5日に開かれた読書会の課題本は、漫才師・島田洋七さん著「佐賀のがばいばあちゃん」でした。厳しい戦後を7人の子どもを抱えて生き抜いた「がばい」(佐賀弁ですごいの意味)祖母との貧乏生活を描いたエッセイで、今では忘れ去られようとしている生きる

知恵と豊かな心が、ユーモアたっぷりに描かれています。この日の担当者の石原恭子さんが作品の解説をした後、会員が読後の感想を語り合いました。主人公のおばあちゃんの素朴で味わいのある生き方に触発されて、食生活や家族のことから、社会情勢へと話題は広がっていきました。

読書で人生の幅が広がる

発足当初は、会員の年齢層も30代が中心でしたが、現在はほとんどの会員が60歳を超えています。当初は会員の子どももまだ小さく、子育ての忙しい時間の合間に読書会に参加し、ストレス解消の場ともなったそうです。その後話題も子どもとの教育問題から、夫の年金の話などに移っていきました。

会長の蛭本栄子さんは「30年間も読書会を続けていると、本を読むのが習慣になって、活字を読まなずには一日も過ごせないようになりました。時には、お風呂の中で本を読むこともあります。また、読書会では今まで自分の知らなかった作家の本も読めるし、読書で人生の幅が広がります」と話しました。



ヒントを得ることもありました。と、発足当初からの会員の宮本睦さんはこれまでを振り返りました。また、会員の多くは読書以外にも多趣味な人が多く、夫が定年したからの人生をバランスよく送っているようです。「この会と共に成長し、年齢を重ねてきたという実感がありません」との蛭本会長の言葉が印象的でした。

編集長から一言

佐世保市民となった宇久・小佐々地域の皆さん初めまして。市の情報がいっぱい詰まった「広報させぼ」を4月号からお届けします。合併してまちの魅力もさらに増えました。4月は始まりと出会いの月。広報紙の取材を通してたくさんのお会いがあることを楽しみにしています。(N)



広報 させぼ

平成18年4月1日発行

佐世保市役所企画調整部秘書課広報係 TEL 0956-24-1111 FAX 25-2184 〒857-8585(市役所専用)長崎県佐世保市八幡町1-10 http://www.city.sasebo.nagasaki.jp 印刷/有限会社 日新堂印刷所

